

研究情報の公開（オプトアウト）について

臨床研究のうち、患者様への侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いる研究では、国が定めた指針において、対象となる患者さまに研究に関する情報を公開した上で、拒否の機会を保障することが必要とされています。このような手法を「オプトアウト」といいます。以下の研究への協力を希望されない場合は、お手数ですが下記までお問い合わせをお願い致します。

研究のテーマ (研究番号)	「FIM 排尿コントロール予測精度向上に向けて ～入院時 5 点以下の患者が退院時 6 点以上になるために FIM・CBA の傾向を探る～」 (承認番号：船 K2024-7)
研究責任者	南 3 階病棟 ケアワーカー 井澤知之
研究の目的 及び意義	<p>在宅復帰を目指す回復期リハビリテーション病棟において、初回評価の段階で精度の高い患者の予後予測を行うことは重要です。しかし、多様な障害を有する脳血管疾患患者に対して具体的な予後予測を行なうことに難渋している現状があります。在宅復帰を検討するにあたり、排泄は在宅復帰への重要な要因で、患者本人や家族にとっても強いニーズがあります。当院では CW が排尿コントロールの退院時予測に携わっていますが、評価する際には統一した指標や根拠となるものを用いず、これまでの経験や知識で評価していました。2021 年度、当院の CWSM にて、「FIM 排尿コントロール 6 点を目指す取り組み～入院時 FIM に着目したアプローチ～」の報告を行いました。その際に入退院時の運動項目 FIM と認知項目 FIM のデータ分析から、排尿コントロール 6 点以上を目指す方の傾向とあわせて、理解・表出が自立に影響することが明らかとなりました。</p> <p>身体機能だけでなく認知機能も関わる排尿パターンの予測 FIM を早期から正確に予測することは困難な状況もあり、入院中に予測を下方修正することで退院の設定変更や方針にも影響を及ぼしかねません。</p> <p>今回は高次脳機能障害の評価視点を追加し、入院時 FIM 排尿コントロール 5 点以下の患者が退院時 FIM 排尿コントロール 6 点以上になるための要素を抽出し、採点精度の向上を図ることを目的とします。</p>
研究期間	2023 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 30 日まで
研究の対象となる 患者様	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日に船橋市立リハビリテーション病院回復期病棟に入院された脳梗塞・脳出血の患者 ※除外対象：再発、認知症の診断有、入院時 FIM 排尿コントロール 6 点以上
使用させていただきたい情報	電子カルテ上の「新評価チャート」に集約された全ての診療情報ただし、氏名や住所などの個人を識別するための情報を除きます。
個人情報の 取り扱い	すべての情報は匿名化し、個人を容易には特定できない形のデータにした状態で、共同研究機関に提供。提供された情報は研究機関で学術的、教育的目的で学会発表、論文等に発表することがございます。
お問い合わせ先	担当者：医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院 ケアワーカー 井澤知之 電話番号： 047-439-1200 (代表)